

「日々の理科」(第2268号) 2020,-9,27

## 「八ッ場ダムの水陸両用バス(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

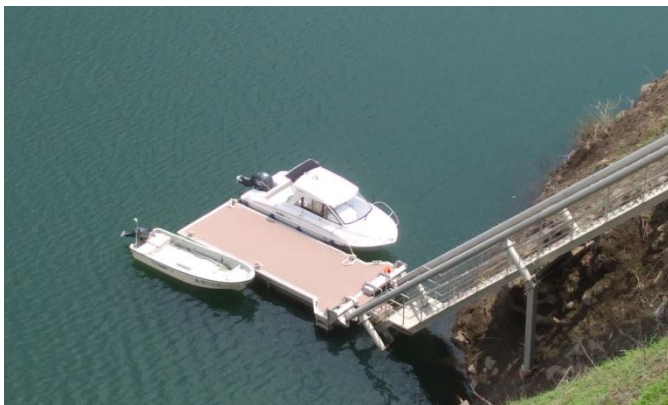
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ダムは、常に満水になっているわけではない。満水になっていたほうが、渇水時に水を利用してきて良いのだが、ダムの役割はそれだけではない。梅雨時や台風シーズンには、八ッ場ダムの上流部(吾妻川水系の上流部)にも大量の雨が降る。また3月下旬から4月にかけては、上信国境(群馬県と長野県の県境)の連嶺から大量の雪解け水が流入する。それに備えて、あらかじめ水位を下げておく必要もあるのだ。



私が7月に訪れた時はもかなり水位が下がっていた。さすがに湖底は見えなかった。もし湖底が見えれば、ダム湖(八ッ場あがつま湖)に沈んだ旧川原湯温泉街や、吾妻線の川原湯温泉駅跡が見えるはずだ。



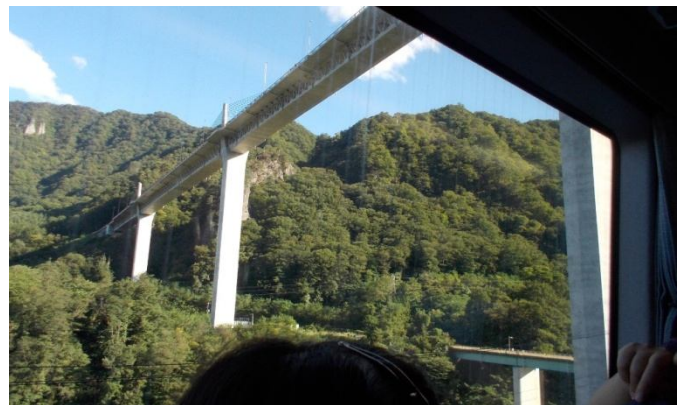
ダムの管理事務所の下には、巡視艇が係留されている。この巡視艇の栈橋は、実によくできている。目まぐるしく変化するダム湖の水位に合わせて、自動的に上下する仕組みだ。ただ、水位が低い時は、巡視員は艇にたどりつくのに、長い階段を降りねばならず、これは重労働だろう。



これがダム湖に沈む前の、八ッ場ダムの湖底付近の風景だ。狭いながらも田んぼが広がり、民家も点在する、のどかな風景だった。



ダム湖に沈むと決まった、旧吾妻線と川原湯温泉駅を訪ねようと、数年前に万座・鹿沢口駅から川原湯温泉駅まで、わざわざ特急列車に乗って訪ねたことがある。現在の川原湯温泉駅は高所に移転され、特急列車も通過になってしまった。この特急券も今となっては貴重品と言えるだろう。



吾妻線の車窓からは、建設中の高い橋が見えた。この橋は、移転になった新しい河原湯温泉街と対岸を結ぶ橋だ、旧吾妻線はダム湖の湖底付近の標高に線路が敷かれていたので、この橋をかなり下から見上げる感じだった。しかし現在の吾妻線は、この橋よりも高い位置に線路が敷かれている。